

【活動データ】

場所:群馬県桐生市黒保根村下田沢

日時:2018年9月23日(日)

参加学年:各学年から参加できる方、ALTの先生方、群大理工学部の留学生

人数:153人

## 田んぼで稲刈り 外国の人と一緒に

今回は、黒保根村下田沢で未来創生塾の「みらい米」の収穫と独立専攻科国際グループのツアー取材した。創生塾で行う学習を通して日本文化を知る・体験するという趣旨から、米作りを作付けから販売までを3年前から行っている。また「桐生という街を世界の人達に知ってもらいたい」という思いから、独立専攻科国際グループが創生塾のカリキュラムに合わせて、ALTの先生や留学生と共に、稲刈りを体験するツアーを敢行した。

地元の方から、稲の収穫方法や束ね方を教えてもらい、田んぼに行って実際に収穫した。参加した人達は、殆どが稲刈り初心者だった。今年は2.3反の田んぼを午前中から刈る人・束ねる人が変わりながら、刈って行くがなかなか地面が見えず、見えた頃にはお昼を過ぎていた。それから束ねた稲をはぎ掛け(束ねた稲を中央で分け、稲干し台に干すこと)し、「みらい米」の売りである、天日干しを行った。この天日干しをする事で、お米の水分が20%から15%まで乾燥し、養分がお米にゆっくり集まり美味しくなります。

そのあと、独立専攻科メンバーとALTの先生・留学生の方でご飯と豚汁、米粉のロールケーキを食べ、交流会を行った。炊き立てのご飯でおにぎりを作ったり、「みらい米」について英語で説明をしたりした。一日を終えてツアーに参加した、ALTのトリスタン先生は「稲を刈ることで、束のまとめ方や、他の人と協力することなどが学べて楽しい。」と言っていた。

また、2年生の引原さん親子は、「稲を刈ることがこんなにも重労働だとは思わなかった。」「みんなで協力したことで結束力が高まった。」と、話していた。

独立専攻科の活動は、これからもメンバーで企画・運営を考え、より発展したものになるよう行っていきたい。



稲を刈る様子↑



稲の天日干し↑